河内名所圖會

九

ル 4
4565
5

門 ル4
號 4565
卷 5

早稲田大學図書館
昭和 34.6.19
藏書

河内名所圖會卷之五目錄

大縣郡

亀瀬川 奇石數品
高尾山
宿奈神社
高安田慶寺
金山孫神社
鐸比古神社
地藏堂
金山孫女神社
氷室旧蹟
支婦冢
寡婦冢
瑠璃寺 山井
若倭姫神社
阪戸原荒陵
大狛神社
常世岐姫神社

高安郡

恩智山
恩智神社 摂社 末社
高安山
高安里
天湯川田神社
竹原井
普光廢寺
大日寺
茶山
鷹巣山
智識寺 信貴泉
松谷光徳寺
大冢
長冢
石神社
若倭姫神社
崩冢
春日神祠
恩智左近墓
九本櫻
名産高安木綿
教興寺

天照高座神社　白飯滝
法蔵寺　佛殿　清涼塔　石佛観音　登龍阪
鬼額　四百殿　千塚
玉祖神社　末社　梶原割れ　本地堂　朝比奈の釜
紫平河内通路　意の水
別之水　花岡山
楽音寺　春日戸神社

河内郡

伊駒山　御野神社
池禽観音　恩知川
梶無神社　櫻井
牧岡神社　本社　末社　若宮　高津岩嶽
大塚　大津神社

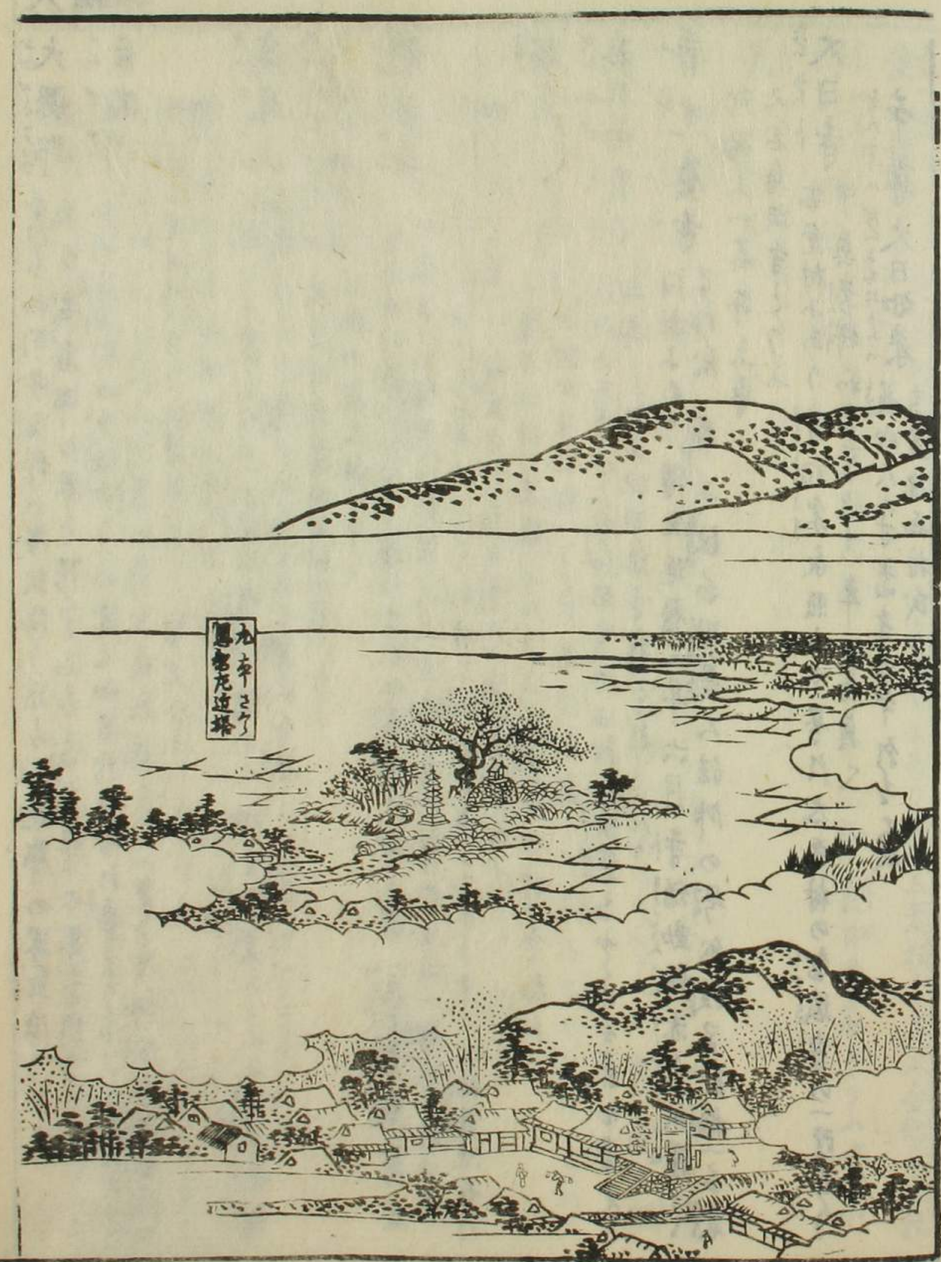
寺井　津原神社
往生院　楠正成塔　楠正行墓
四條縄手戦場
見澤　白水池　沖嶽所
如ト
栗原神社　姥ケ火の

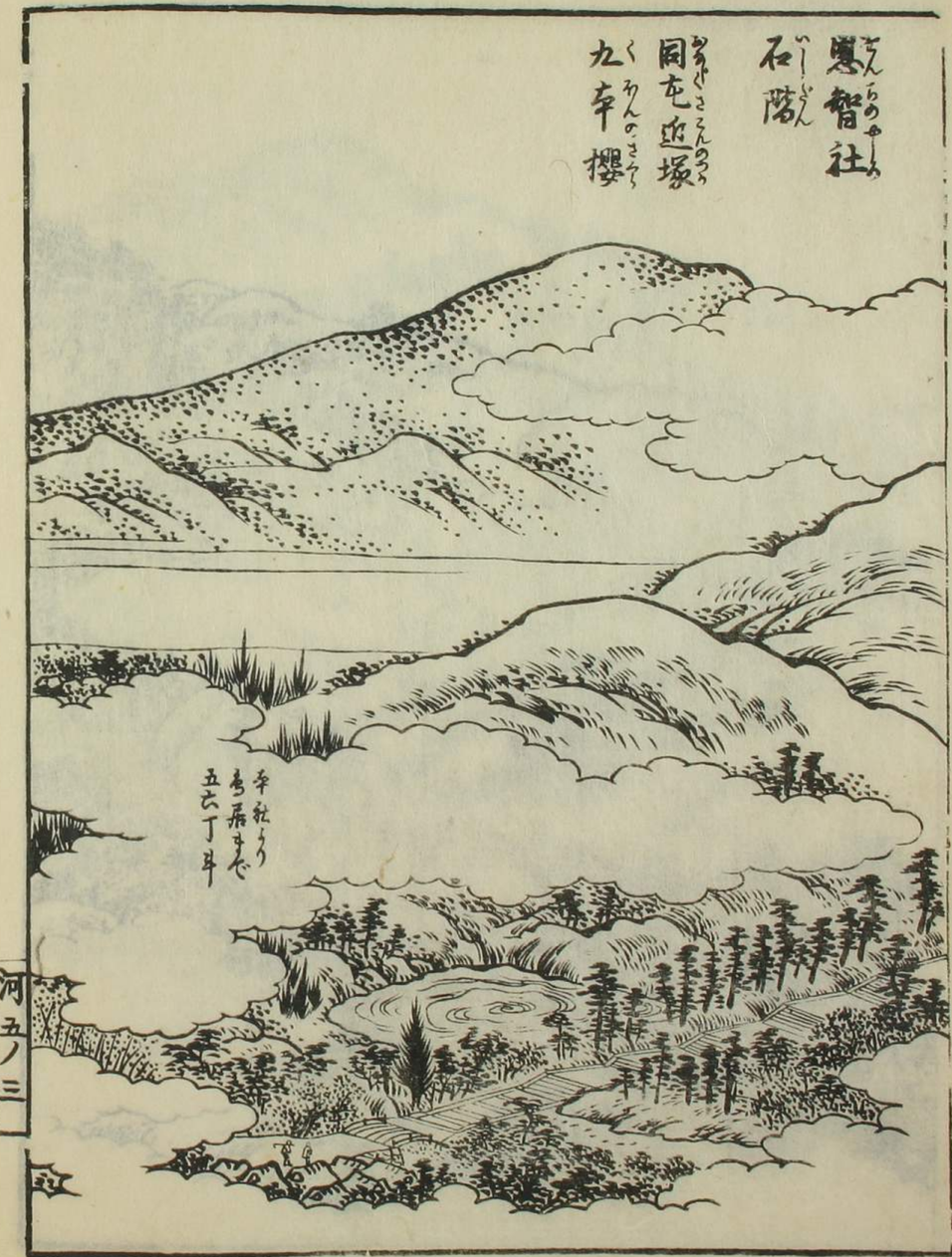
河五ノ壹

掃部神祠　八大金剛祠
圓鏡池　神霊泉
高安城墟
佗麻多度神社　真徳丸古蹟
竹之坊
十三佛
笛吹松　夜懸巌
御祖神社　鴨神社

椋嶺峠　髪切山　本堂　鬼髪田　観音堂　五子塚
長尾瀧　雙竜瀧　石碑
千手寺　不動寺　龍山公　石碑
草香山　鷲尾山　額田寺
大龍寺　竹香山　額田祠
富景樓　石切劍箭神社　興法寺
草苅里　日下瀧
忠臣日下部使主

恩智社


九幸さくら
鳳凰尼道場


恵智社
石階
同在道場
九幸櫻
幸社うら
高羅すぐ
五六丁半

大縣郡 東は和泉郡に接し西は志紀郡の界に限り南は安宿郡の界を限る安宿郡の界を限る

亀瀬川 和泉郡鶴田川の下流なり水源は大和石川郡岡舎に発し多上の名に流れて大和川となる川巾の通に亀瀬渡あり是より河内の界に花田

仁徳紀曰里四町あり此通に成むと

用さ[illegible]玉林抄に見へ[illegible]

高尾山 大縣村の東にあり山腹に老松一株あり根を巨巖の上に繞し蒼鬱

三葉にして愛まべきもの里人を擽して尋々べし

天湯川田神社 延喜式出高井田村の西にあり

式地の生土神

竹原井 高井田竹原山にあり 續日本紀云養老元年二月 元正帝車駕

竹原井の頓宮に行幸ありし又宝亀二年二月竹原井の頓宮に行幸

神人ちなこれあり又石井にあり

神人ちなこれあり

宿奈川田神社 高井田村の東南にあり土人白阪明神と称す

式地の生土神

高井田廢寺 旧村にあり今[illegible]延喜式出

[illegible]高井田村に長栄寺[illegible]高井田寺を

普光慶寺 旧村にあり傳云延暦三年六月寺僧勤韓赤竜[illegible]

[illegible]弟子[illegible]

式賜人一名井上寺

又名鳥阪寺

大日寺 安堂村にあり曹洞宗永照山と号す太平村の智識寺の一院なり

中興[illegible]和尚享保十一年の再興

本尊大日如来 長弁尺六寸高寺の本尊大阪

[illegible]高井田村[illegible]

金山孫神社 延喜式内[illegible]

式地の生土神

鐸比古神社 延喜式内高尾山の嶺にあり今比賣[illegible]日神[illegible]

清泉あり

茶山 平野村の上方雁多尾畑山の南にあり

鷹集[illegible]

[illegible]百首

[illegible]

[illegible]

鷹巣山 法名[illegible]村の上方にあり采山[illegible]

[illegible]

地蔵堂 龍瀬渡にあり里人云婦人乳を病[illegible]

[illegible]

金山孫女神社 延喜式出雁多尾畑村にあり今山王と称す

式所の生土神

智識寺 初光安堂を平の二村にあり仏壁巍々たり天平勝宝八年

二月に[illegible]

清浄泉 [illegible]平の村にあり

四時涸れず

松谷光徳寺 雁多尾畑村にあり浄土真宗

本尊阿弥陀仏 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]念堂号 又護念堂 寺金佛門の開祖[illegible]寺[illegible]
[illegible]林堂也 古藤の跡あり 寛喜巳丑の年
[illegible]水 後年[illegible]名泉あり 又竹寶教ふ石 棒石 腰掛石 空虚石 安堂
[illegible]村人生れを 石 長持石 飛泉 直下ふ流[illegible]夏い暑[illegible]
[illegible]の名地形

氷室舊蹟 雁多尾畑村ふあり 永家の姉[illegible] 仁德天皇の御宇[illegible]
雜俊名所圖會ふ見へ[illegible]

夫婦家 同村ふあり 由緣詳[illegible] 大家 長家 寡婦家 俱ふ青[illegible]村ふあり

瑠璃光寺 山井村ふあり 醫王山と号し開基を行基大士[illegible]年[illegible]
某所佛を行基の作 長六尺今禪僧寺藏也
山井 堂の傍ふあり 清冷甘味[illegible]
眼疾のその濯を若治もるの[illegible]加井[illegible]

石神社 延喜式出太平寺村ふあり 今熊野と称し三代實録云
貞觀九年二月頒官社 氏地の生土神[illegible]

若倭彦神社 鎏延喜式出平野村ふあり 今權現八幡二座也称し
氏地の生土神[illegible] 三代實録云貞觀元年八月授従五位下

若倭姫神社 鎏延喜式出平野の屬村山井ふあり 今去日八幡也称し
氏地の生土神[illegible] 三代實録云貞觀元年八月授従五位下

阪戸原荒陵 平野村ふあり 里人云 淳仁天皇陵也称し陵上ふ大木
の古松あり 氏事 陵を故神 那西ノ浦 村白髮山[illegible]
地[illegible]今明[illegible]

崩家 同村ふあり 由緣詳[illegible]
[illegible]中 廣サ丈餘

春日神祠 大縣村ふあり 大縣山井 法若寺 平野村の
生土神[illegible] 例祭六月廿六日

大狛神社 延喜式出本堂村ふあり 今山王也称し
氏地の生土神[illegible]

常世岐姫神社 延喜式出神宮寺村ふあり 今八王子也称し
三代實録云貞觀元年二月頒官社 氏地の生土神[illegible]

高安郡 東ハ和州平群郡の界紀限 西ハ若江郡の界を限り
南ハ大縣郡の界を限り 北ハ河内郡の界紀限る

恩智山 恩智村の東北山

恩智神社二座 延喜式曰名神大月次相嘗 新嘗
恩智神宮寺村ふあり 生土神[illegible] 恩智山ふあり 例祭六月廿七日
十一月卯辰の日文德實録云 嘉祥三年[illegible]年十月恩智大御食津
貞觀大御食津姫命授正三位 勲六等 三代實録云 元慶元年正月
並ニ授従二位 去日ハ神明 西宮 玉祖 住吉

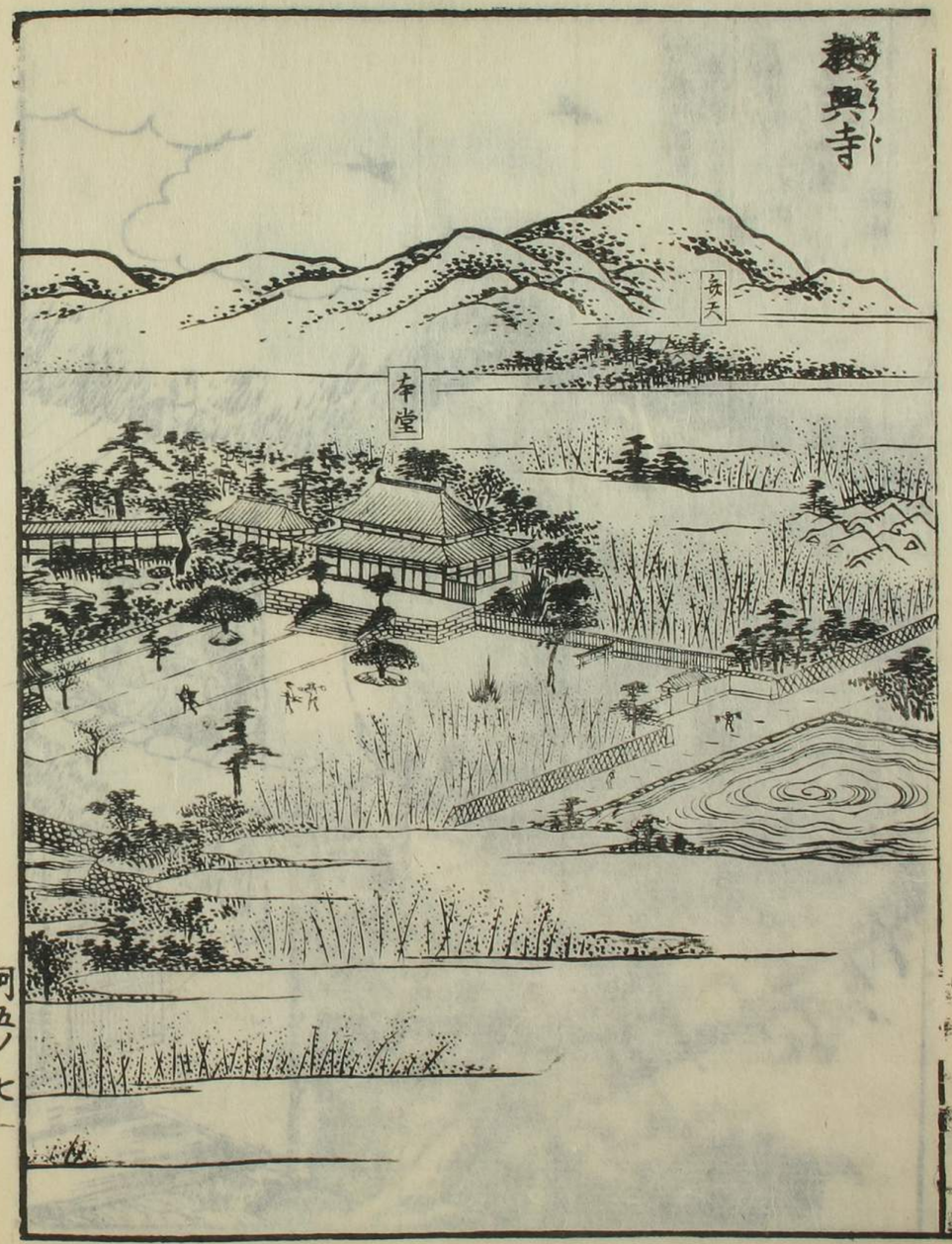
攝社 熊野 吉野 八幡宮 山奥六七町ふあり

龍近將監恩智滿一墓 恩智村の中ふあり 恩智藏ふ義[illegible]
勤労[illegible]志操[illegible]ぜ[illegible]城郭の[illegible]
恩智附石往還の傍社の入口ふあり 官軍の侍士[illegible]て王事に

九本櫻 恩智家の側ふあり 古木大樹ふあり 根際[illegible]九本[illegible]
分る今株古枯し[illegible]年[illegible]櫻も古梅の[illegible]
又六十年枯れを枯枯し[illegible]ぶ[illegible]これ[illegible]枝株の[illegible]
老樹[illegible]一圍の名木[illegible]

國中の民婦人多く
勇て紅花織棉布を
織る恒の產とす
これ他邦に勝れて
明地なり

雪安の里公
見給んとの
義のなり
むもめ織しを
班叶


興寺
妖天
本堂

高安の
里北
嘯月
方丈
表門

辛社兵天
大和乃
猫ノ石ノ洞

窟
糠天
紀寺
梅岩寺
圓見石

高安山 一郡の東にあり平城都の時烽を擧し此あり 烽燧 大和名所圖會云日本紀曰壬申の亂に大伴吹負軍を高安城に置き河内國高安の烽火を見て平城宮に通ず 烽火 軍器の狼煙烽火形ち他國の軍發し來る時高安に登る烽火 峯ぬれどそれを見つゝ 軍物あり皇武紀に見えたり 火燈の所ふ見えたり今高安城鉾伏山 殿の所ふ見えたり 元亨釋書曰寛平九年河内明達高安縣に東山に登り生駒谷の仁家に入る 駒谷 西の海 入門 遠 帰 遠 高安里 和名抄古跡多し

雲ぞそれぬ淀馬ぬ山のいかるんふを雲ぞ高安の里 源家長卿

新古今 萩をたれうらふ 田神ろ〳〵ふ月さえ夜うれ高安の里 後人丸

文本 それぞとそひろう立田乃山ぬ端ゆ育ぬの月ぞ高安里 鴨長明

高安ふうら里にわふ時香ふ陸の山と越くめとらふ 公朝

名產高安木綿 山城國の農民綿を多く作りて安を家毎ふ老若男女夜陽燈を繰り績くふ他郡ふ賣る 八尾久兵衛の高人村々ふ綿を買ふ強地ふ是を河内木綿と云 織しつゝ河内うひの木綿買まち叩き池向上 外村人

獅子吼山教興寺 教興寺村ふあり一名高安寺又法慈山と號す 宗旨 真言律

本尊弥勒菩薩 聖德太子佛像 長七尺丈余 座像

法寺いかるゝ大度ふ〳〵く伽藍山 強 連 初ゆ秦門賜の建

立ふ〳〵く秦寺〳〵中に 延 火ふ罹 大ふ荒 廢 今村中

に大門田 灯田 ふ〳〵 寺 田二 指 鎮所 有 寺

近年 覺 玄 地五 再興 ふ 佛 殿 天井の畫ふ蟠龍を畫 〳〵く 狩野

永伯 色信 の筆 彩り 殿内の

本石 風 系 あり て 奇 雅 なり

天照大神高座神社二座 延喜式曰大月次新嘗 元春日戸神社と号に

教興寺村東の山麓にあり 〳〵ふ今 疫 財天

堂内ふ安に神 像 あり 弘法大師の作 也

て巨巖七寸 例 祭六月七日 此所の生ち神 〳〵に 回 ふ 腰 あ

あり 頭 天 岩戸 〳〵 一 圍の岩窟 を 神 殿 〳〵く 祭ふ 龍 宮 居

代 〳〵 の もと

形 る べ し

白飯瀧 岩窟の南ふあり 三丈 詳 土人 雑 天 〳〵 と

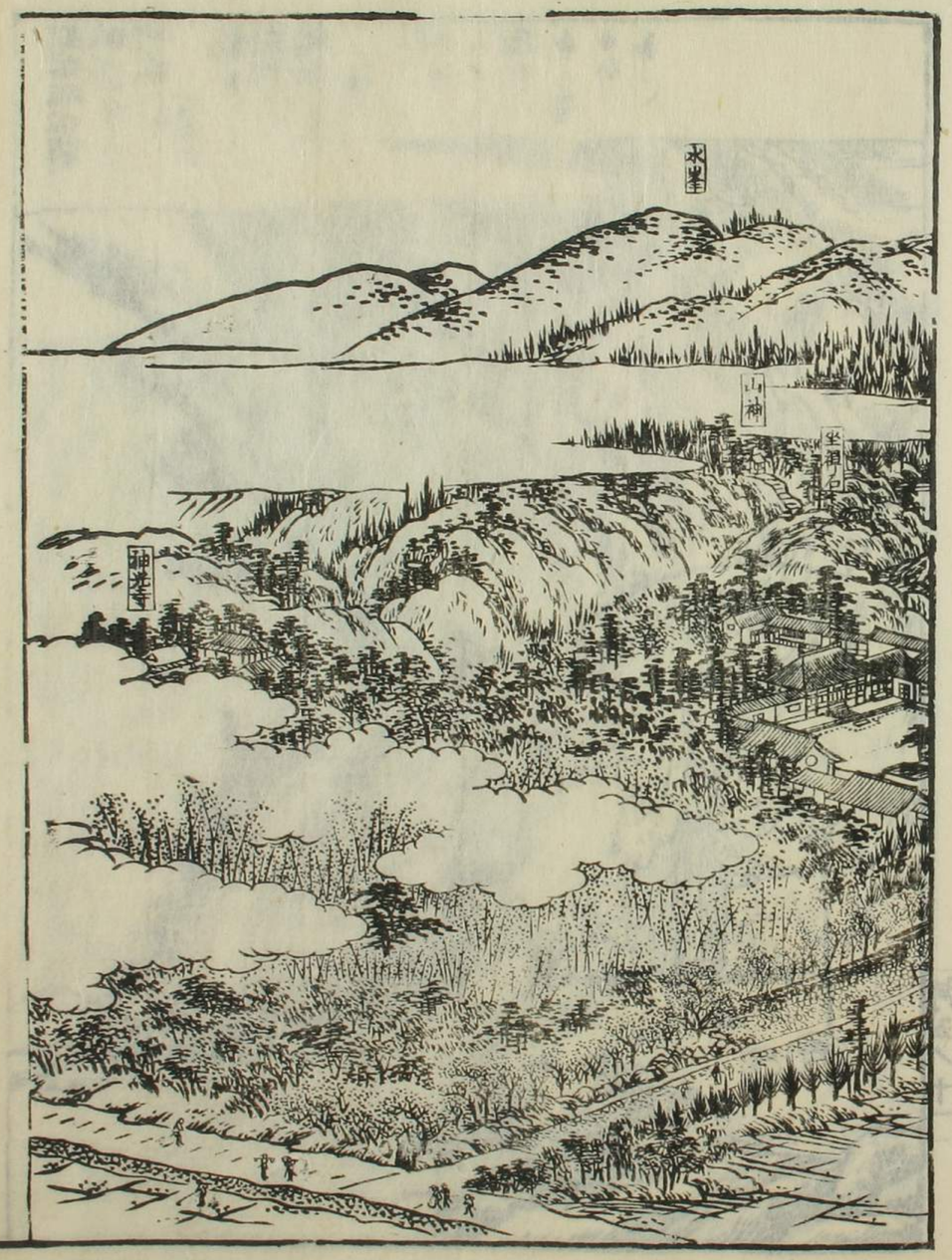
稲 刈 あり 秀 稲 山 梅 岩 寺 〳〵 此所 〳〵 西南 を 町 と 〳〵

黄 楓 茶 見 和 寺 用 碁 〳〵

掃部神祠 黒谷村ふあり 三代實録曰貞觀十六年

十二月授二從五位下

八大金剛童子祠 黒谷村山中


水車
山神
坐禅ロ
神光寺

郡河
法義寺
太平山
出城
丸尾
兜カヽヱ
不動ヒ

高安郡の山里
郡川のかくりへ
千塚として
大古の
窟多く
其中より
陶器出る
これ神代
よりの
品物
みして
横田老
命の製
かひ
面ゝん

大覺山法藏禪寺

郡内村ふたり
禪宗曹洞流

本尊正觀音 佛殿ハ当山の上方ニあり 唐慶長五丁酉歳造立す 脇士 左毘沙門天 右不動尊 倶ニ弘法大師の作なり

石像觀世音 当山の上方ニあり 相傳弘法大師の鎮し給ふ 金毘羅權現 の神像を安ん

清涼塔 山頂ニあり 開山和尚の廟塔

圓鏡池 堂前の池なり 共ニ魚肉ハ無し 蓮池 紫藤 玉蓮

登龍阪 当山へ登る坂路なり 角石まり

夫当山ハ古寺ニして年代創久遠なれど開基沉ぬ詳ならず

年々荒蕪ニして元禄中肥後流の僧こゝに住して極楽寺

山号を改め曹洞宗好山和尚ハ再興の發願をなし弟子

当時の現住仁海和尚ハ寺領を受け佛殿諸堂寮舍

方丈等悉く再建して名代法藏寺と改む抑開祖好山和尚ハ南

海四國の刺史長曾我部泰氏の裔孫なり若冠の時土州真如寺ニ

於て薙髮して遊方の後陽州泰雲寺ニ貴職して摂州退藏寺

天桂禪師ニ從ひ嗣法し終ニ寶暦十一年二月廿三日当山ニ於て

寂ス 年七十 二代益洲和尚も亦同じく同姓の人なり こゝニ止職して精

舍の營建を急ぐ道俗為に強解中ハ丹青代好もく茅園ニ遊び

西方を隨縁齊無礙と号し 沈氏ゲ者流を慕ふて虎谿園して

其精妙を淳ふ

神靈泉 寺の東南懷抱圍の中ニあり 傳云当山新発ニ水乏しく

霖雨の時ハ濁流し渓間の溪水を汲用ひ旱魃の時ハ現識益洲和尚水土祇神祇ニ

祈る事 七ケ年 一朱 彩神 蓋の中ニ沉む山中 事所を掘れ

一清も形し 濃夫と雇ひ横井戸を穿事 二町許掘れ 岩ハ

穿ち 濃夫大ニ労して 罷入る ニ 益洲勤ひ 今十間斗

の 極ニ 的く 霊泉 涌出 ハ 又 岩 ハ 穿 ハ 儀 ハ 有 る 引 一 の

の 意 ハ 通 ハ 々 し て 明 の 概 ハ 覺 を ま ち り く 彦 裏 方 丈 の 意 中 へ

ハ る 事 ハ 已 時 ハ 為 ハ ま ち ハ 事 ハ 今 ハ 安 ハ 為 ハ 指 ハ り と ま ハ 開 く 人

感 夫 せ ば ま ち ハ 事 ハ か し

題神靈泉

一上自龍神現夢中昆明緬想漢時功
刺山勢向巖崖發卓錫心依勝槩雄
碧水春寒横竹引銀河夜冷透雲通
禪餘茗飲甘瓊液更愛孤栖聽不窮

肥後州 禹鱗

題法藏寺

百尺丹梯到上頭招提構在薜蘿幽
神仙縮地三千里雲樹連天十五州
歌枕溪声霄作雨釣簾嶽色晝當樓
亦能開士經營力無復山崩崖壞憂

益洲

高安故城

法藏寺の上方ふあり傳云天智天皇八年二月高安城を構へ持統天皇元年十月高安城ふ幸し文武天皇二年八月高安城を修し又大寶元年八月高安城を廢して其材奥を大和河内の民ふ賜ふと云ふ五老峯とゝふ永祿年中松永久秀の墨あり

鬼額

五老峯より中ふあり土人鬼ヶ吉と云ふ其上方を四百殿と云ふ家の地なり

千塚

千塚村服部川村及法藏寺山周ふ多し大石紙を右ふ清く上ふ蓋覆し門開のめくりの廣サ五六尺ありて其上ふ奥の長サ六七間許中の廣サ方壹丈方或丈なるもあり高サ壹丈なるもあり高サ壹丈なるもあり中ふ人骨あるもあり其大なるもあり山中ふ甚多し

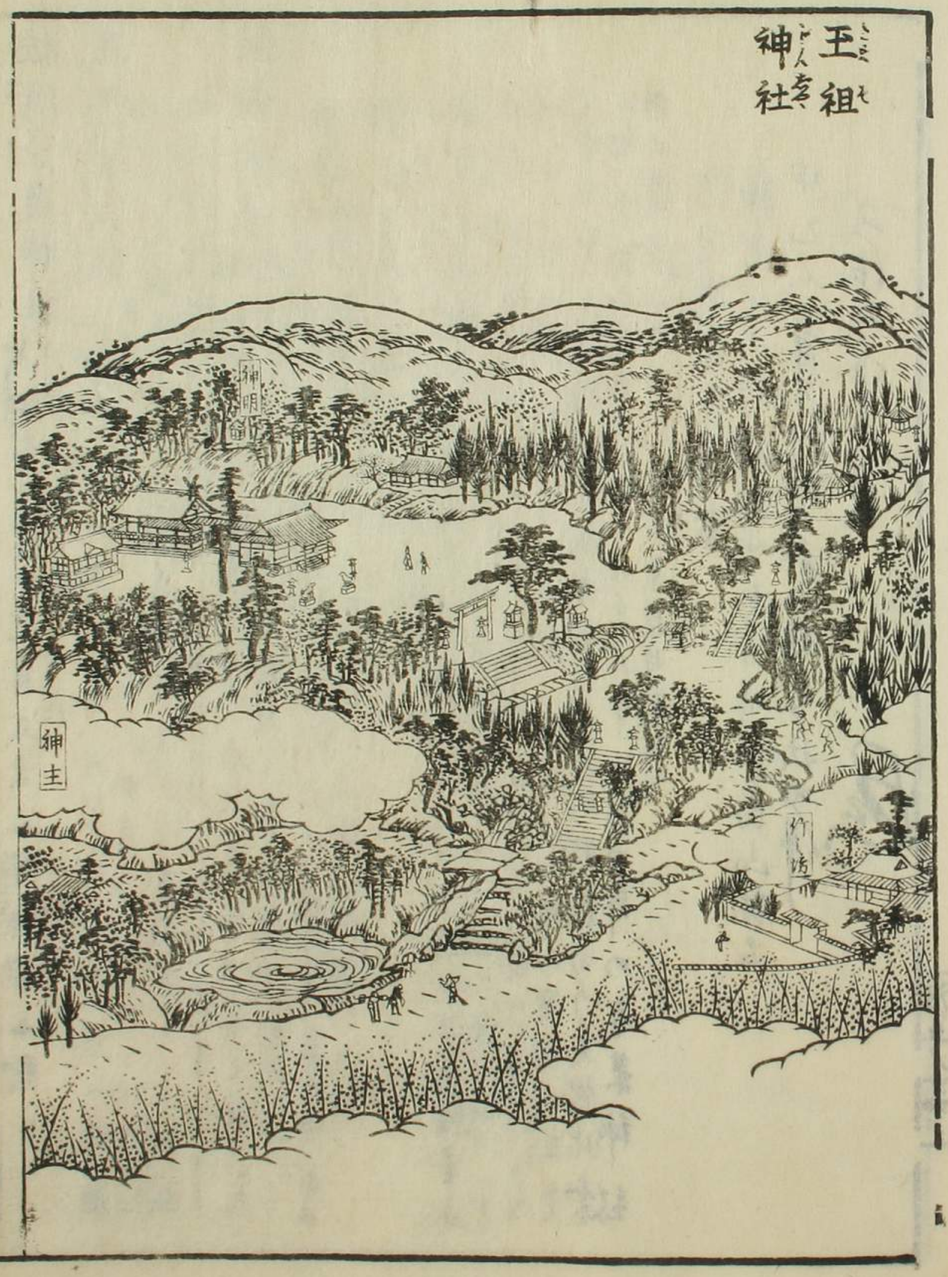
窟

中ふ陶器土人清云大むかし

弟

又の説ふ天下旱りの時大の雨ふて弟ふ免るゝ云ふ

王組神社



佐麻多度神社　畑村ニあり延喜式出又[illegible]ニ載セ

真徳暦古跡　山畑村の中ニ有り土人傳家ニ伝ふ一説ニ後徳百濟王の後ニしてくに山畑長者と号し延暦中の人と謡曲弱法師ニ見へ[illegible]大坂天王寺南門の外ニ真徳街道あり

王祖神社　神主村ニあり延喜式ニ出近村十一箇村の生土神ニ例祭九月十日社記云和銅三年の鎮坐ニ

末社　吉野三十八所神　恩智　本地堂　下渡の地ニあり観音堂ニ又傳ニ地蔵ニ

任吉八王子　蛭子

蘭光寺竹之坊　当社神宮寺ニ

真言宗止住ニ

本尊千手観音　壹演傳正の感得ニ傳正ニ弘法大師の作ニ

初メ当寺ニ山の麓ニ[illegible]ニ[illegible]の腹内ニ[illegible]

千手大悲の[illegible]容[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]

て本地堂ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]

三郎義経の書あり[illegible]記ニ又本間孫四郎の弓箭神ニ

村の農家ニ伝ふ　梶原景時制札曰

河内國蘭光寺者
鎌倉之山新禁所也
甲乙人等不可有乱入妨之状如件

文治元年十二月日　平

朝比奈書翰

[illegible]

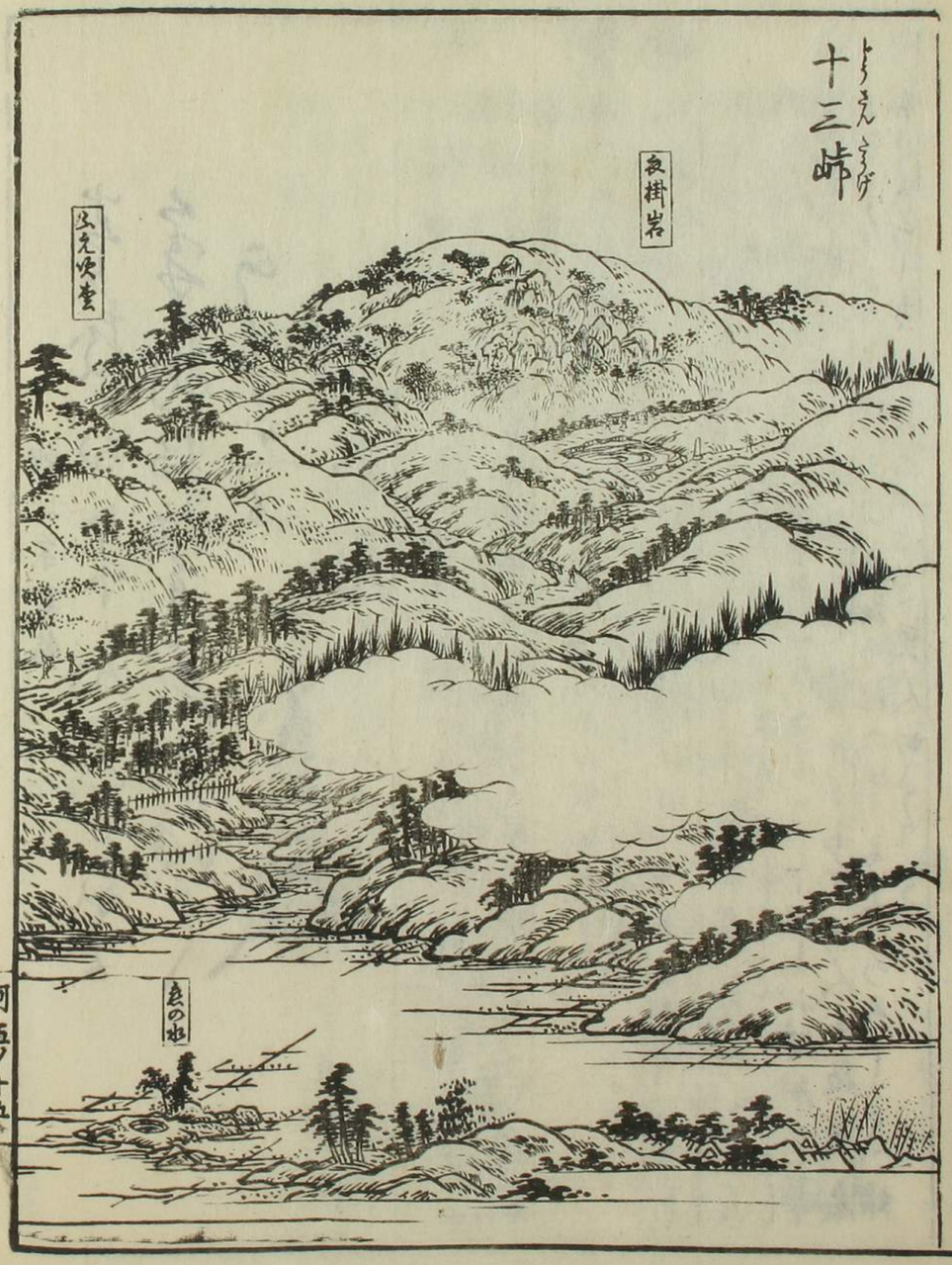
義経

十三峠　神主村ニあり大和國平群郡の界ニて廿三町嶺の路傍ニ塚十三[illegible]道大坂より大和郡山法隆寺ニ初瀬ニ参詣ニ通ル[illegible]屋

業平河内通古蹟　土人云十三峠道の中ニ[illegible]

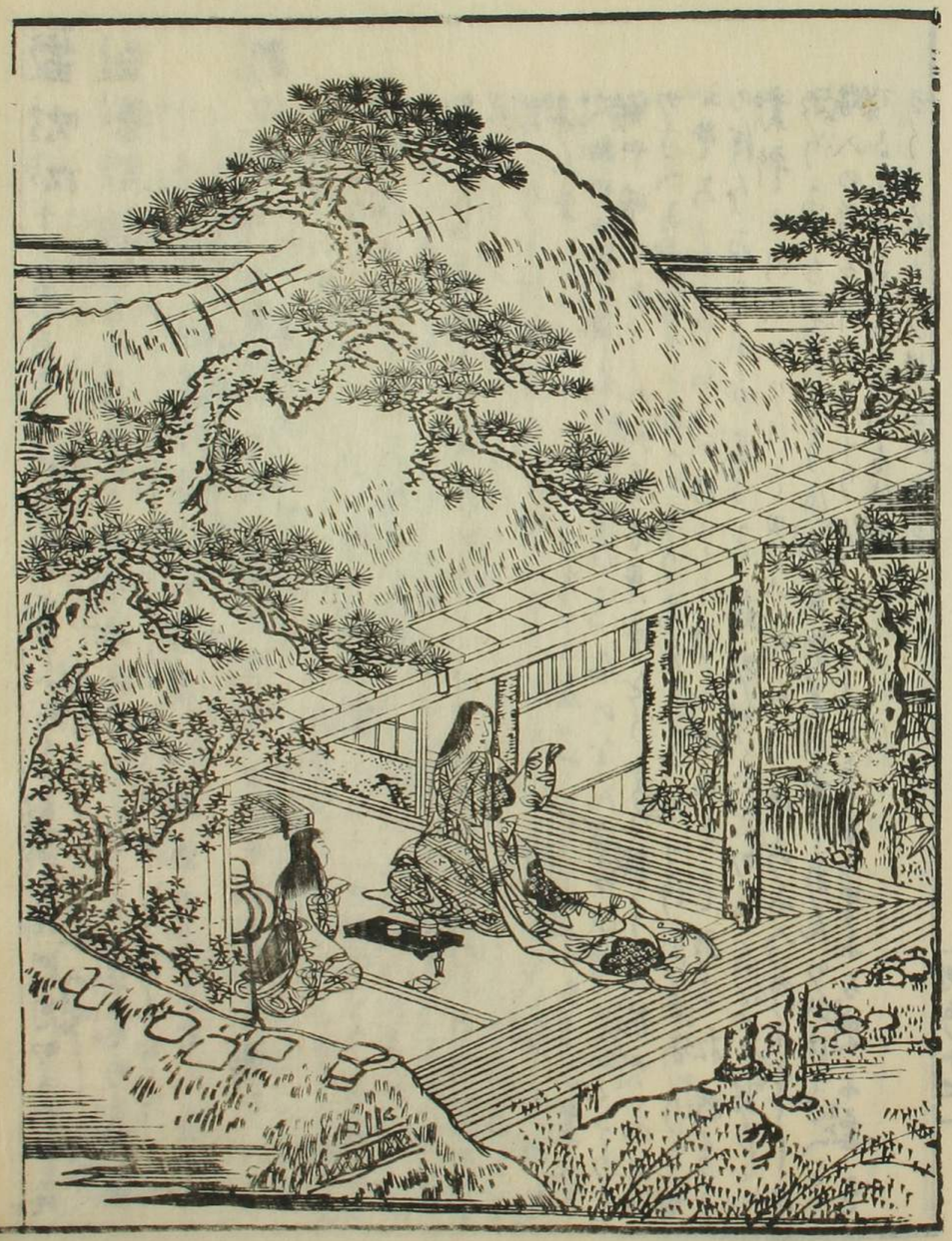
戀の水　山畑村の中ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]

十三峠



あるひは空にうかび
叶雲霧清冷
にして四時涼
減なし四方の人
夏日の渇を
忘れず其所に
地蔵尊あり
これ仏水の
地蔵なり

業平朝臣
河内通ひ
河五ノ十六



[illegible]

[illegible]

[illegible]

花岡山神　延村ニあり　式　治慶長中の戦場ニて南方軍記ニ詳ス

今浄ち京の佛刹あり

御祖神社　大窪村ニあり　延喜式出二代實録云貞観二年十一月授二正五位下一　式所の生土神ニて延喜式出

鴨神社　大竹村ニあり　鴨姓とて延喜式出

樂音寺　樂音寺村ニあり　むかしの佛刹歟　今某昨年ニ

春日戸社　坐御子神社　延喜式神名帳河内國高安郡の部下ニ出ル　又三代実録云貞観元年正月授二従五位上ニ

今然坐所

河内郡　東ハ和州平群郡の界ニ限リ　西ハ若江郡の界ニ限リ　南ハ高安郡の界を限リ　北ハ渡良郡の界を限リ

伊駒山　河内郡の東ニあり　和州ニ跨ル　大和名所図会ニ大和名所図会ニ岩屋石文樹戸　岩屋南ニ長ク　岩屋ニ竜ヲ　岩屋ニ竜ヲ　式所ニ　篠原ニして　岩屋ニ　式所ニ　苗方ニ　晒ゆる　岩屋の麓ニ　山ニ　ハ晒ニ　ハ晒ニ　ハ晒

[illegible]

[illegible]

法の月々しくもさ歌文ふりゆくしも　源宗長

後古

生駒山より西ふ傾尾の神ふ生れめるとかうら数ふ社文雲

延保百首

秋の色紙文雲のくれふ見るこせ住生絵の嶽ふ付ける方ふ

御野縣主神社　鎌敷延喜式出　上ノ郷村野郷辺ふあり　今天王社

寺井　福萬寺村ふあり　泉味

津原神社　延喜式出市場村津原居神とした古称なり

池島観音　池ノ島村ふあり　正観音を安置

恩智川　源高安郡恩智村の小川流れて幸郡福萬寺村辺に入る或云む

仁徳天皇十四年掘り大溝を感玖乃引テ石河水ヲ而潤ス上鈴鹿

下鈴鹿上豊浦下豊浦四郷郊原ヲ以テ墾ス之得ル四萬頃田也

[illegible]

岩瀧山往生院六萬寺村ふあり浄土宗　永昨智恩院ふ属ス

本尊阿弥陀佛　聖徳太子作　脇仏釈迦佛　仮本ふ安置

長三尺許

[illegible]

[illegible]

[illegible]

王子衆とて四人の社家其間六藏寺の旧記を傳
慶しく今権現の裏にて天和の末浄土宗の僧誉陳泉坊来りて移金
の荒蕪なるを糸所の堂上家へ言上し本堂に三尊佛を安置常別
念佛の道場とせんと願ひ出ぬ社家山嶽を切開き伊駒嶽川の地
鬼取ふけ谷に住居せし修験の地とし中山女人の系統をもつ
尚山ふもと鳴川へ流る浄土原小字所
大覩岩　小覩岩　若窟　神縄掛　矢上　國見石　金拴池　八葉峯
鬼の足印　九重塔址　正行城址　堂之芝　雨の滝　釋迦嶽　掛茶滝　新向石

梶無神社　鎌延喜式出六萬寺村の屬邑櫻井ふもと今舊山明神と
櫻井　櫻井村ふもと
梶無といへる地名あり

四條戰場　四条村の發内糸御通路にて南北朝正平四年正月六日楠
太平記云　正行戰死の所なり或云四条縄手八條良郡北条村ふもとなり
高師直師泰ら淀八幡ふ城を構して猛諸國の勢を待調へ河内へ
向へ出べき議しなりし楠已ふ逆害ふせんと為ふ吉野へ臨やし今日
河内の住生院ふ着ぬ此度河内へ出べき師泰ら正月二日淀城を立て武萬餘騎
和泉の堺乃浦ふ陣を取師直も翌日三日の夜八幡を立て六万餘騎四條縄手
ふ着け供やそ相迎へ給へ楠も楯を立て難所を前ふ為て相待ん寄てら

更ら長く寄られくい便あるべしとやく三軍五所ふ分れ為雲の陣をかしく
陣ふ設け陽ふ倚ふ中略楠帝刀正行金剛正時和田新兵衛高泉金剛彰義意
陣ふ籠る翌日三十餘騎を率して夜陣れより暮直ふ四條縄手へ押寄まず行使の
敵ふ切掛け散さんと將師直ふ善合て勝負決せんとかも擬議せん進んぐり縣下野
手ふ白旗一揆の旗頭ふて遥の岸ふ立ふ菊水の紋只一流是非ふく武勇
の陣へ切入んやとふを為ふ北の岡ふ馬ふ乗ふ上て飛下てたぐ今敵
切入んやと侍遺ふ一文字ふ遮て東西ふ飛ふ立ふ成て我ふ掛かけふ勇氣
強ふ楠勢僅ふ徒立ふ形ふ敵見て些臆ふ二手ふ分ふ為ふ本陣の五百餘騎南々
中村ふ向ふ糸勢村山弥次郎大草三郎左衛門二人直前ふ進ぐ射落ふ為ふ野
七郎是を見て敵ふ氣を付ぐ少し村山が陣ふ上ふ飛越て美を面ふ出ぐ
射向の袖を抑ふ小跳して進んぐり敵東西ふ雨の降様ふ射る矢ふ
内甲草摺の端二所貫深ふ射ふ射られぐ左力を倒ふ為ふ其矢ふ抜んと為ふ為
所を和田新兵衛為蒐寄て肩撞切て落てふ　下略

四條縄手
合戰
楠正行
討死

往生院
六万ち村
筆塚
神主宅

平岡右衛門
六萬寺村
楠冢
補正國郡
河正行墓
平岡右衛門

本社

牧岡神社
来迎寺
神宮寺
社司

牧岡神社四座 出雲村 九月九日 近村十四ヶ村の氏神 南壹大日靈尊 二天津児屋根命 四武甕槌命

祭神 三經津主命 天押雲命

若宮 末社 豐磐間戸命 櫛磐間戸命

猿田彦祠 若宮の南 榊祠 神主の名なし 天鈿女命

延喜式云大月次相嘗新嘗兼和六年冬十月授正三位勲二等天兒屋根命従二位従四位上

三代實錄曰貞觀元年正月授従一位勲三等比賣神正四位下

子屋根命正四位上勲六等比咩神従二位兼和十年勲平岡大神社官等永預把笏

貞觀七年冬十月勲神主一人給春冬當色載料絹布等三契平野梅宮神主又春秋二祭差神祇宮中臣宮人一人撿校祭事兼付幣帛又差琴師一人供事祭場立為恒例十二月勲河内國平岡神四前准春日大原野神春冬二祭奉幣永以為例

公事根源云

讃景雲元年六月廿一日武いつちの命常陸國鹿島の神に宣旨ありて条地を献ずべしとの勅ありしかば伊賀國ふのたりの郡ふかしの枝と清水ともふる中臣の連時能勅を受けて人形を作り十二月七日ふ大和國あべしふかしの同じき三年正月九月三日

山ふかしの神に捧げ奉りて疫鬼屋根の命を上の申に日

[illegible]取りうつしまつりて児屋根の命を河内國平岡

さきふ根大神ふ伊勢國[illegible]

[illegible]

[illegible]

使を遣はして[illegible]

を焼き五穀に其中へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高津嶽 南社の山嶺 照澤 [illegible]池と云

白水池 [illegible]池の名の[illegible]

一ノ宮 [illegible]社[illegible]六町許西の方道ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天下ノ威ヲ闘ハ者ハ〳〵 於是上奏シテ曰近年足利天下の権を
恣ニシ官領互ニ鉾先ヲ〻〻王風衰弊シテ天業衰ヘ
半ハ〳〵不倭尾州ニ出誕の時母羮の中ニ日輪を呑ミ見ル人
身を依之日輪の照を所麿下ニ属せんと云事ハ〳〵
三軍五兵の運を徳の未ハ〳〵と申せば願い勅状下シ〳〵関白乃
至職を許シ給ヘ仁政を施シ国民を極育せん王道衰ヘ帰シ
四海清平ハ〳〵と奏シ給ヘ百官議奏シて遂ニ勅許ヲ蒙
被ル時ニ近衛景久公龍山公 関白を執柄の職ニ〳〵て武家ニ
任ぜらるの例いまゞ聞ケむ〳〵 天子の外戚摂禄の外ニ任
ス例ハ〳〵也 獨遊ヲ行ハ〳〵ハ〳〵れども早勅免あれば是非なく
龍山公薩摩国へ左遷の御身と成ハ〳〵れども三年を経ず
〳〵て帰洛シ給ふと聞く〳〵御下向の御船ニ〳〵れ波
浪江河辺の者ニ御舟ハ為〳〵れ河内国平岡明神を遠祖天児

屋根の御神なれば〳〵ふ信〳〵御ハ〳〵く〳〵の其時神来て御舟ニ
ひざきの〳〵迎ル衛もそれ〳〵で身を百姿ハ遠浮洛守 龍山公
ハ〳〵く〳〵洛〳〵の果まで御下向ハ〳〵給ふ〳〵留別の御ハ〳〵〳〵や
神酒祝戴を給ふ〳〵〳〵御土器を乞せ給ふ其神器忽然ハ〳〵く
彼れ〳〵ハ〳〵神人勢ハ御土器を乞ハ〳〵る又碎く為の〳〵故ニ為久公不
思議ニおぼ〳〵先〳〵此後ハ先ハ神酒祝勅ハ〳〵れ没ハ明神〳〵れ〳〵ひ〳〵
〳〵ハ悪も〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵神人従者も奇特の〳〵ひを〳〵〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ

又神德の新宮なる所に其うり額田村の奥なる不動寺長尾瀧などを見めぐりて山船に乗れば八重の沖風を志のぶたさに まがるを

おもむき終り

さつまの國額娃郡に天照宮式内建立あり

藏中郡　かりの浦

いにのうれたく小北殿の神とあり口碑浦沿よせて名る山

名寄

れの発ともあきれるくふる殿ゆいりつはきつきりの湊ふ

うれ不治

右の旨記る寛永十九年　多部の後龍蒔田從五位上藤理權大夫原重

慶の書れし　額田寺往綴紀の奥書に　建久二年の

後沖帰　浩　又元禄十二年巳卯の秋天旱　疫を其時近衛関白

大政大臣基凞公祈雨の沖　歌沖　詞歌　短冊を献じ給れ

大明神の神殿へ納給ふ忽霊雨頻ふ　五穀豊饒を其時の

浩　多ふ

比良とゆふ所にくりまる神ゆふ氏にまりてあれをれ基凞公

山沖　短冊神　主名居氏ふ山後早の時祈雨ふ神殿へ捧げ　給令あり

て名居忠勝へ　ふ　当神　寛　和　山　多ふ　傳来　名居形り

寶基杜　明神の弦産尾花坂　平居山　多年　姥　附あり　夏見河　神おの川を

祝辞石　四位の格　千代　古道　名居の祭り

側ふ　あり　道　氏

正月十五日

沖粥占之神車

山日女行の餅を沖粥の記

五十四名社他の粥ふ書

毛氏あるて釜中にひげ

沖粥を煮て其餅ん

中ふ入し小豆を用紀

毛氏考豊

と上下にかち粥持を

ゆ者其年の占成

る聲ふ告し　ふ郡ふ

の法人年穀の占を

ちゃ　かつり耕紀の

一助やきる年　仕古の

表風　して今ふ

年　ちたを　謙に神童の

あり　ぬ　ちゃ　ぬ

神楽堂中沖供物の

石　ふ仮屋なり　ふ

神前を正面とかく

餅を　くし

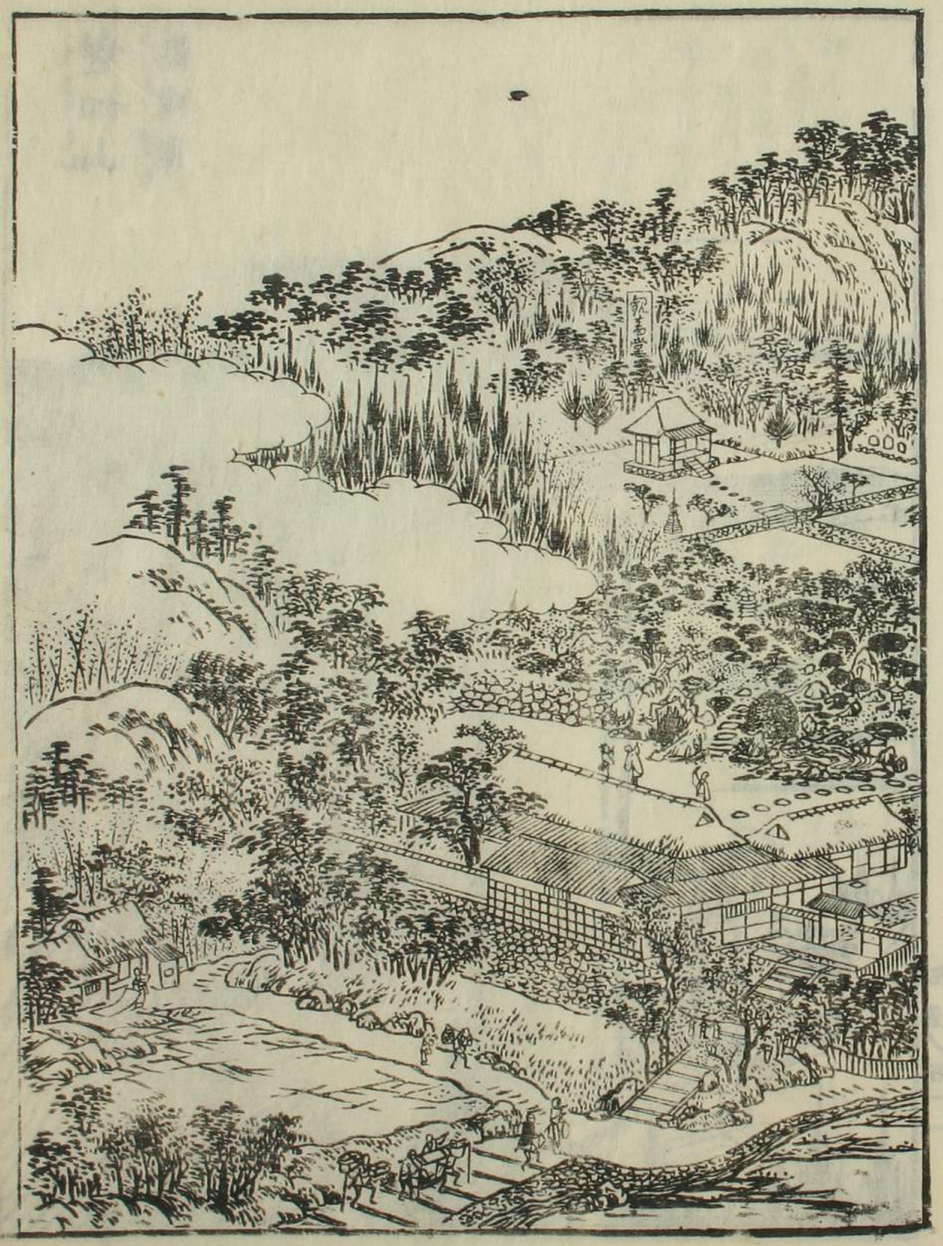
其二

麻蹴占祝詞の畧
此祝詞の事は神主
鳥居氏の秘伝なり
其外の社家も是に倣ふ
麻蹴之記
麦くゝり
早稲くゝり
四十日
あげの中田の分
あげの畑の分
下田の分
十七
卜の畑の分
あげの
そこで
そこで
そこで

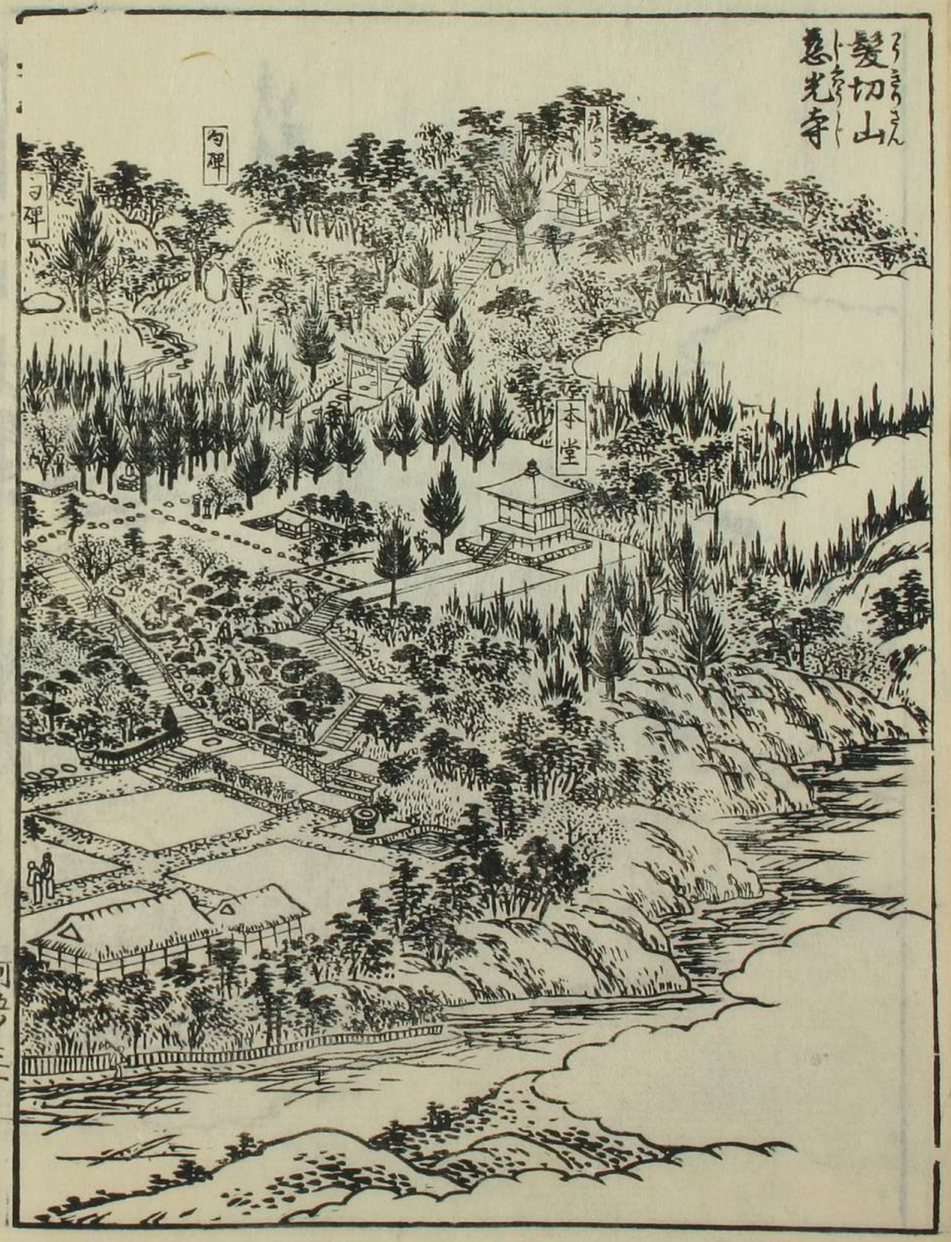
平國乃
富居の
すまひを
逸村らう
集りて
かつと勇せ
いどみまゝ之
武神を
軍神をれを
こもあん
河五ノ二十八

投られて
れして
もう山武
三岑

揖嶺峠
芭蕉翁
碑

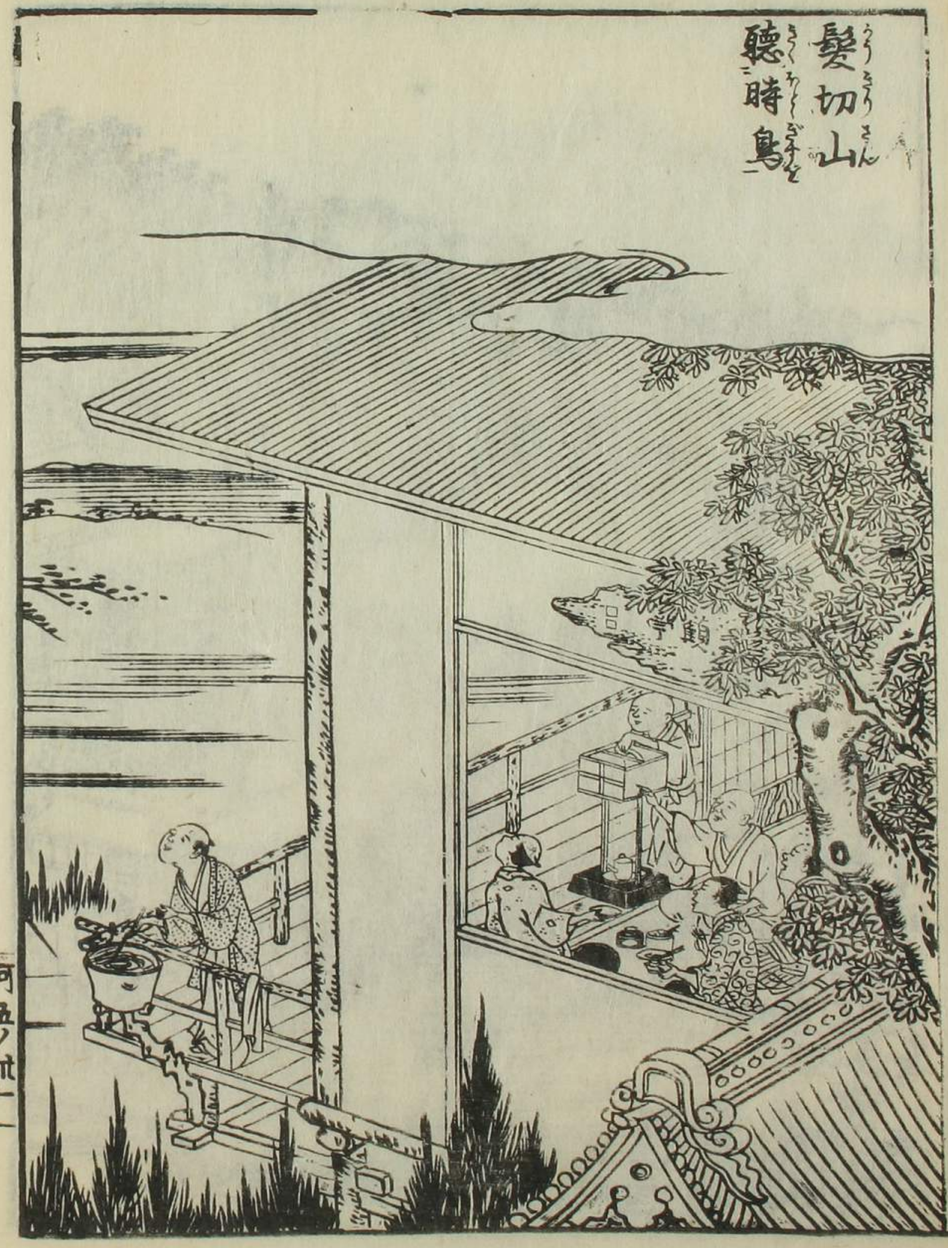


髮切山
慈光寺



河五ノ三十

髮切山聽時鳥



先立て流れ出れり地中の闇穴の殺もるあり恐るゝ小見へ
くゝきハ馬場言武の本朝天文志ハ見へくゝ

椿ケ嶺峠 世ハ時峠とハ云ふ 桑宮通より峠村ハ柔店旅舎多し 東の麓ハ河内大和の
國境あり生駒の山脈繞くハ小椿山と云ふ 故ハ椿の名あり
一説ハ山乃松杉又山ハ多く繁茂し時々見れを吹く名付くるも
代取くゝ今ハ太樹少し

菓子屋ヶ原 菓子屋ハ名の由白峰椿ケ嶺峠街道の側
迫頃寛政十二年巳丑十二月豊浦村の素粕山白峰椿ケ嶺峠街道の側
ハ建て薫菊の一百遠忌の追薦くれ又諸方の俳諧の句を懸くこれを
小冊くゝ法花の二桝の序あり
菓の名也鄙号せり

髪切山慈光寺 峠より三町許ハ本あり
真言宗

本尊役行者 庵ハ自然石ハ窟 鉢ハ椿も
観音堂 本堂の北ハあり正観音ハ安置 感得ハ行ハ今其地を観音嶽と云
尚山神の方四町ハ
鬼髪田 観音嶽の麓ハあり 五子塚 五子の塚あり行者ハ誕者
今糧心田くゝ
鎮守 山王八幡 春日
夫役優婆塞ハ和列葛上郡茅原邑の産く母の髪ハ獨鈷空ハ

降く口ハ入せ又く忽肝身くゝ 舒明帝六年正月朝日誕くゝ行人日本紀
三年辛卯十月廿八日 丑刻出誕せあり 七歩ハくて始く慈救呪を誦せ唐本日々十萬遍
ハくゝ時ハ聰明叡智にして修験道ハ信くゝ年二十二歩の時
家ハ業く葛城山ハ入く巌窟に安居 唐本二十年孫葛を衣
松ハと食ハ充く神呪ハ誦くゝ 白雲ハ駕して仙府ハ遊くゝ鬼神ハ
驅逐くゝ使令くゝ 日域の霊嶽を修歴せ云ふ本朝くゝ ある時ハ葵面
の瀧ハ入く龍樹大士ハ謁くゝ又ハ金峰嶽ハ登り葛城の石橋ハ一言主神を
促せ神異妙奇測ハ屋くゝ 天智帝の時時駿馬山の深渓ハ鬼嶽有
て往返これが為ハ害せ唐行者これを嫌く其面鬼を捕て呪縛せ其地
ハ今鬼取山と云ふ 行者ハ 山ハかの鬼髪を擢んで此地の巌陵ハ塵と兩の
役使せ給くゝ 金峰山ハ入給ハ前鬼後鬼これ 行者その頃遥岑ハ海くゝ
甚ハ嶮ハ光明耀々くゝ 行者これをお中ハ認見る金容の大悲備せくゝ
これを本尊ハくゝ山を髪切と称くゝ寺ハ慈光寺と云

其景象は東は大和の碧嶽西は難波の滄浪を望く日想観の便あれはもれ
月を眺々ゆゝしく千岩の水紙訪ひ風を凜々ゝしく松林に琴を弾ぜ書て
開山の一ゝ三尊の寺田六字の伽藍あり東海にてゝ業因しるる羽ひ
元亀の兵燹小羅く佛閣荒暴ゝく今僅に存せる薔薇荒墓楊柳
新ゝゝゝゝゝ古ゝゝの覽古あるべし
当山は郭公の名所さく雑波津及び遠近の騒人和月さ月の間ゝに
来ゝく泊ゝ風流を孫ゝく系稿を寺に認む清水納言の親の言葉
に本々のこれ業をぞ志げゝゝ和歌でけゝ屋ゝゝゝゝゝ雲ゝ
屋ゝてゝ竜の音ゝ死のあるゝ中ゝ弥ゝおゝ
千原夕ゝゝゝゝゝ志のびゝゝゝ第ゝ中ゝの山ゝゝ耳ゝを
聞ゆるまでたゝゝゝゝをつけゝゝん何のゝちゝはせん中ゝ風
韻に魅惑せゝれて詠ゝ毎年遠近の郷士ゝゝ集ゝゝ蜀魂の句を作り
ゝゝの風雅に
又親を其風流せん聲ゝまゝゝ

髮切山主
元本

不動寺 頼田村長尾岡にあり 醍醐を鞭に
真言宗平石高貴寺に属す
本尊不動尊 弘法大師作 仏長さ八寸許、古石巍々ゝゝ則
大師の開基ゝ本願を氏里郷保の遠祖高内
結人なりしゝ年業
久遠にして今僅に存せり 加持水 寺の三町許山奥にあり大師密法
修行の時用ひ給ふしゝゝ
石碑 寺内にあり 逸年高内の秀
逸清龍山公牧図の往へ
案内して此寺に詣せし
高貴寺の巻雲和上
入ゝゝ不打ゝ形ゝゝ

其文云

天正年の頃茅屋白逸清和尚牧図社に詣ゝゝゝ
高内正定ゝゝゝ御ゝゝゝ寺に入せたまふゝゝ

枯のこ原長尾のわゝ花もゝれ雨もゝゝけてゝゝけむれ

養龍房

閑茲寺は長尾寺又滝ゝゝゝゝゝ氏所縁ゝゝ長尾の薄を今に業報
ゝゝゝゝゝ氏ゝ縁を見ゝに薄蘿ゝ松枝に鳴ゝゝ鳥ゝ林頭に
鶯ゝ囀ゝ烟寂々香火飄々ゝゝ清浄無塵の佛室あり

長尾瀧
不動寺
不動寺

上瀧
古瀧
二之瀧

河五ノ三十五

長尾瀧　長尾山ふもとにあり雄滝・雌滝の二つあり雄滝は高サ四丈許り巨巖直下ふ落ち雌滝は高サ五丈許り岩面を伝ひて一丈許ふ落ち

雙龍菴　雌雄の滝の上ふたつの巖窟ふ五ヶ年修行せ

此菴龍の花泉弘法大師ふ雲ふ乗じ素練を垂石ふ濺ぐ明珠成散せ

むかしむかし弘法大師額田寺ふ止錫の時此地ふ来りて

密法を修しみづから五大尊を作り給ふ今ふ存

若れるの氏流ふ活しぬまを平金を嘗て龍山公も崔嵬たる樵路を

訪ねて北鮮町の山奥ふ分入られたるふ詠歌有り氏歌を

雙竜庵主書ひし高内氏岩面ふ彫ぜられ其文曰

天正の比茅開白茅久公牧岡社ふ詣せ高内正定

歌の序しるべに糸り此滝ふたちかよる

たつとすいありとも変に山ふ生れ長尾のれ久の滝のたつ糸

雙龍菴歌

額田神祠　額田村ふあり神額田大神者乃応神帝乃御母ふ当ル故ふ此神を祭ル

額田村ふ高内氏の家ふ伝ふ

高城入姫祠　紀古佐美祠　皆人祠　これら高内の遠祖

額田寺　同村ふあり醫王山と称ス

真言宗

本尊薬師佛　座像高サ七寸許　日光月光十二神将弘法大師作

大師祇園寺ふ住ス時ふ高内若く寺と称ス村の西ふ所ふ城跡八幡宮

あり城跡八幡宮ふ高内氏の家ふ伝ふ

又ふ紀路ふ沿ひ来る高野山へ通ずる道ふ沿ひ

額田林三日市ふ至る紀伊路ふ沿ひ紀伊路ふ至る

千手寺　同村ふあり真言宗

本尊千手観音　弘法大師作　長サ一尺

役行者の開基ふ係る弘法大師ふ役行者の番ふ代り

爰の中ふ祝ひ補陀洛山の番ふ代り

して千手観音大悲の像を刻み

生中将業平卿の部を彫して

業平塔　境内ふ

雑天冢　土人塚と

鷲尾山　神社村の上方ふ山脈伊勢山ふ続く山峰絶ふ

樹樹

[illegible]　[illegible]の時ふ高内氏の家ふ伝ふ

神祠を建て今僅ふ小祠あり

高城入姫祠　紀古佐美祠　皆人祠　これら高内の遠祖

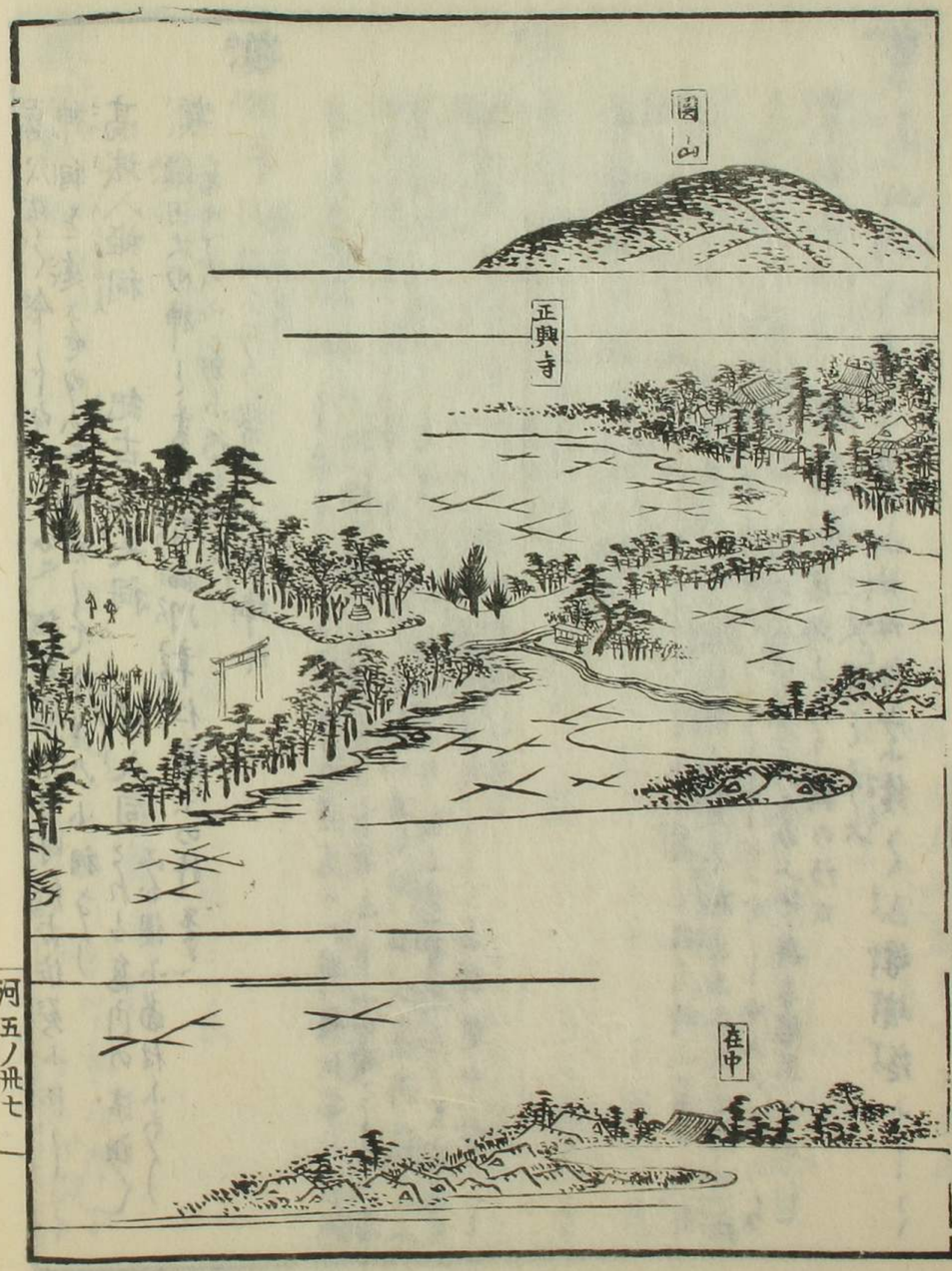
額田寺　同村ふあり醫王山と称ス

真言宗

本尊薬師佛　座像高サ七寸許　日光月光十二神将弘法

大師作

額田大神　額田村ふあり応神帝乃御母ふ当ル


國山
正興寺
森中

石切劔箭神社
本社

石切劍箭神社二座 神籤村ふあり 延喜式出三代實録云貞観七年
ヒノ社と為社之例ふ六月十四日神並芝植分領田 日ヒノ名
五ヶ村生土神ふ〜〜〜〜紀を倶ふ
興法寺 神並村の上ふあり 鷲尾山ふ
真言宗
本尊三面千手観音 聖武天皇 行基大士 婆羅門僧合作
高山峯 役小者開基殿后 長三尺六寸
止揚して諸尝祝賀たまふ 基婆羅門ふ任じ法大師を
僧ふ為を 永禄年中大風冊後寺入道浄味神並村
山ふ社四所ふ同方右ふ橋の双ふ 社植ふ年果られ
て社色の素の統なり 滅を拓れども孫生の花盛ふ
什寶 両界曼荼羅巨勢金園寺
十二神 将十二幡 同寺
草香山 伊駒山の續ふ 山麓ふ日下里あり 類字名所集れ振津
神武紀云 遡流而上 経至河内 沖吐懐編ふ河内
聖運の日歩 東征の時 大和國ふ入給ふ
古通なり 萬葉集の長歌草香山ふ云
忍照難波を過て、打靡、草香山を、夕されば
吾こえくれば、山もせふにてりぬ、

君況何時往而さや乃ん、左注云右一首偽作者歟不レ顕二名字

續古今撰

おしてはや難波をさしておかひくの菜者の山況乃ふ乃ほるかな　俊人

菜香江　今尚郡内日下村の管内ふ天子池御所池素盤池高津池

つゝあり　古事記云　印色入彦命低二時下高津池

池ニヲ云　比池むら　廣大

記雄略天皇の殷ふ引田の老女ゝ歌ふ

菜者江の入江乃蓮ゝれたちをこの片うゝきろゝを

歌ゝ引田の菜猪ゝ〻ふ老女のゝ歌ゝ　天皇めさんと宮ひ歌ゝ

忘れさせ給ひくゝてゝふ老ゝそゝゝる況比幸をきゝ〻先〻ふ〻ゝ

ゝひて賜の御ゝゝを賜へゝそゝゝ

菜へゝゝる二首の中　あゝり

續後撰

菜者江乃入江ふあさ芦田鶴の名かゝしゝ友ゝ比ゝ

吐懐編云比哥ゝ〻ゝ菜紫式部四の〻ゝ大納云藤人卿師ゝ仕

ゝて〻上り給ひ乃ゝ時況弥濃惣の紙ゝ乃ゝ給ふ比ゝ

草苅里　或云日下邑比ゝ〻ゝ

詳

藤注

古川の入江乃あゝゝゝ乃ゝゝゝ成比菜かゝれ里　師光

日下嶺　日下村大ゝゝ武町許

上奥ふあゝり

涼〻さや三千尺の滝れいや　水走梅園

瑞雲山太龍禅寺　日村ふあゝり　紀京　黄檗派

佛殿釋迦佛　殿内中央ふ安ゝ

禅悦堂　佛殿の左ふあゝり　食堂之中央ふ　金茶良ゝる者況安ゝ

選佛場　佛殿の右ふあゝり　況ゝ況安ゝ

開山堂　開山惠極和尚の像況　安ゝ

鐘楼　選佛場の西ふあゝり　額圓嶠

表門　額瑞雲山　開山惠極筆

聯　表門の左右ふ掛る　惠極の筆

翠竹蒼松明月袖　意ヲ

端雲彩氣殘山門ヲ

石橋　幅六尺一枝石

齒ゝ用墓ゝ久ゝをゝ〻ゝ〻ゝ中真禁派惠極和尚二代春宗和尚

寶永年中の建ゝ〻ゝ本願ゝ大

開云尚寺の本願浪花津色書所ふ小溪林常悦住生

ゝる信大若根の功德みやゝゝゝゝ　佛業

ゝゝゝゝゝ　雲菴況勢り比大況　孫ゝ師況遇ゝふ

ふ甚佛の云法王の弟生ゝ林氏常悦居士ゝ法本況詩ゝ況ゝ

師菴覺ゝく坂比ゝの住職をめゝ況ゝ干の師尚附ゝ弟ふ林氏

のゝ孫ふも六字の名雅況師深筆ゝゝれ賜ゝ況ゝ其名雅

今ふ東坂大表氏ふ

俗素〻〻ゝゝ

富景樓　右田村右田氏の宅ふあゝり比池の領主斤桐侯ゝ聖堂ふ倣て

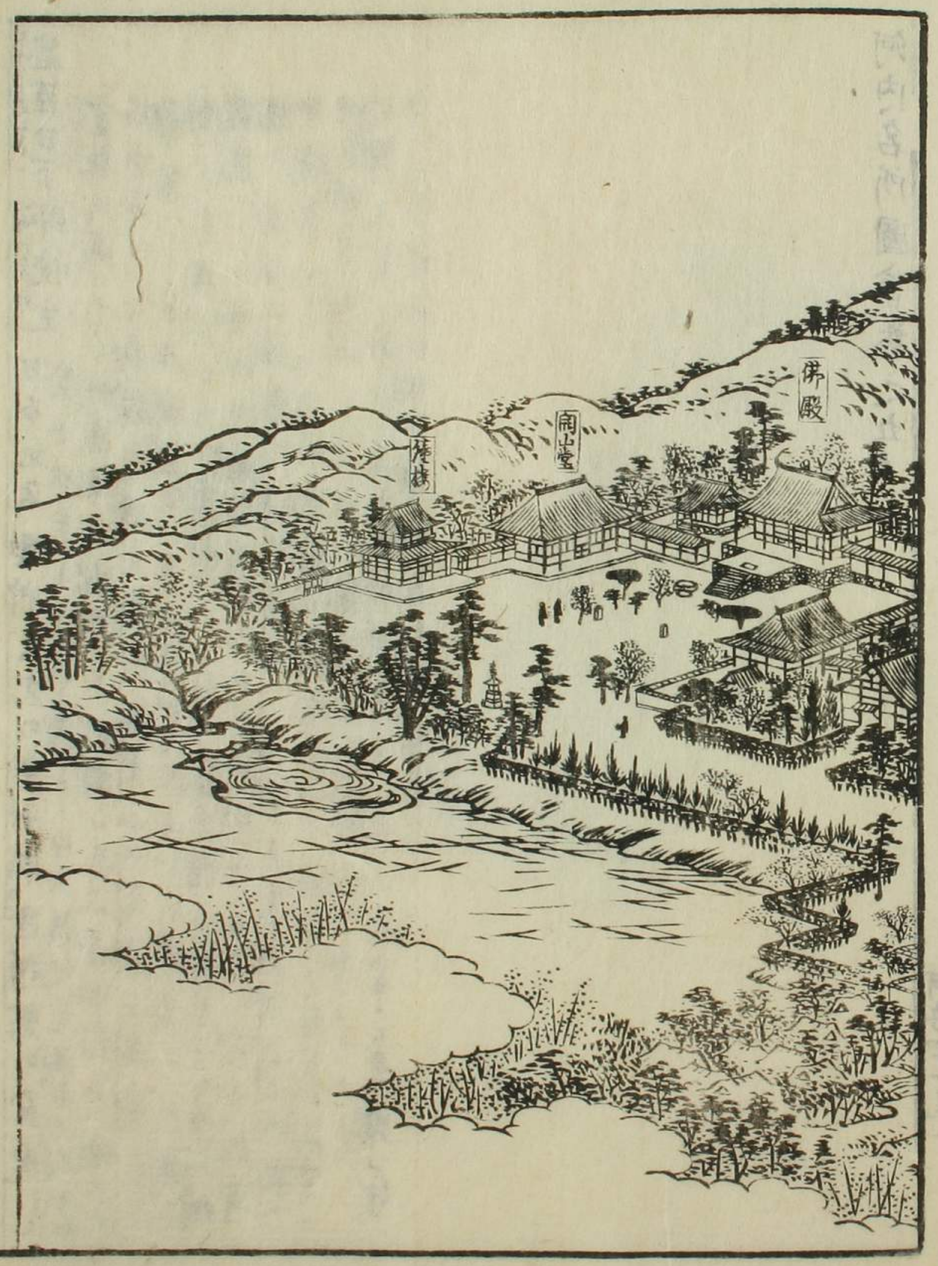
書籍文集歴史及び和漢の書籍若干況況ゝ本況ゝ橋ゝ

書目錄ふ委〻〻〻　右田思云二百石を寄附〻〻ゝ比樓の不朽ゝ

みゝゝ監讃〻〻〻富景樓千景日

駒山朝嶽　高安秋月　弱江斜陽　櫻井春烟　水田白鷺

恩智流螢　麥隴錦雉　金嶽殘雪　池島夜雨　華岡晩鐘



日下大龍寺

忠臣日下部使主

日本紀云 履中天皇の皇子市辺押磐の家に
皇孫弘計 億計 丹後国与謝郡に逃遁る其子吾田彦と倶に
山を登して危難を避又播州縮見山の岩窟に潛居
書育して年を使主と云ふ
遂に奔走して年老衰食に
甚哀しむ 遂に終を死を二人の王孫
父の志成
終に赤石の海を渡り其時 清寧天皇 治路 治人猶の
明潔を求ふ 二人の皇孫
仁賢天皇 と称せる 大に喜び 文中へ
中略 是 日下部の後裔 紀に曰 しめ
天皇 と称せる 宗 天皇 に帰け
是 みな日下部 辺子の忠臣 なり